

2025 年度 北京大学国際関係学院との学術交流 報告書

日時：2026 年 1 月 8 日（木）15:30～17:30

会場：10 号館 2 階 大会議室

1. スケジュール：

15:30-15:35 開会の挨拶 成蹊大学法学部 国際交流委員会委員長 金光旭 教授

15:35-16:30 研究報告 北京大学国際関係学院 陳長偉 准教授

（通訳：成蹊大学法学部 光田剛 教授）

題目：「冷戦期における米台同盟の交流メカニズムについて」（原題：「冷战时期美台同盟的沟通机制」）

16:30-17:30 質疑応答

17:30 閉会

2. 概要

2025 年 1 月 8 日（木）に、北京大学国際関係学院との学術討論会が行われた。

北京大学国際関係学院の陳長偉准教授教授により「冷戦期における米台同盟の交流メカニズムについて」と題した発表がなされた。中華人民共和国建国（1949 年）から中米国交正常化（1979 年）までの冷戦期において、米国は台湾と外交関係を持ち、台湾やオーストラリアを含んだアジア太平洋地域の諸国との間で NATO とは異なるタイプの同盟体系を構築していた。米国とこれらの地域・国との間で行わる首脳会談が、同盟関係の維持の上で重要な役割を果たしていたが、他の同盟国に比べて、米台間の首脳会談の回数が極端に少なく、その原因の解明が重要な課題とされてきた。陳准教授はこの問題に焦点を当て、米国との首脳会談の回数がもっとも多いオーストラリアを比較の対象としつつ、首脳会談の意義や機能、そして各同盟国の国内政治における首脳会談に対する必要性の相違など複合的な観点から、首脳会談頻度差の背景について分析がなされた。

発表後には、近時の台湾に係る諸問題も含めて活発な議論が交わされた。

冬休み期間中にもかかわらず、教員・院生 14 名が参加した。